

第2回 城端地域学校のあり方検討委員会（会議記録）

【日時】令和7年5月21日（水） 開会：午後7時00分 閉会：午後8時35分

【場所】城端市民センター 3階大ホール

【出席委員】 水上 和夫 委員長 松居 裕 副委員長 平田 光津子 委員

神口 美菜 委員 夏梅 紘行 委員 勇崎 香志 委員

稲場 えみ 委員 安居 範光 委員 古軸 裕一 委員

近川 利行 委員 山下 茂樹 委員 和田 弘恵 委員

【欠席委員】 松本 久介 委員 松井 渉 委員 山根 正行 委員

嶋田 裕樹 委員 安達 正彦 委員

【事務局員】 教育長 松本 謙一 教育部長 氏家 智伸

教育総務課長 上野 容男 教育総務課副参事 山本 佳和

教育総務課主幹 小谷 篤史 教育総務課副主幹 青能 順子

教育総務課主任 井上 健

【会議要点】

- ・学校のあり方の検討に当たり、「城端小学校と城端中学校の両方を今までどおり維持する」という選択肢はないということを再確認した。
- ・教育委員会から提示した計6つの学校のあり方案のうち、今後は、案1「城端小学校を残し、城端中学校は他地域の中学校と統合」と案2「城端小学校と城端中学校を統合し、城端地域に義務教育学校を設置」の2つの案に絞って検討を進めることを確認した。
- ・7月～8月に地域説明会を開催し、第2回検討委員会で絞った上記の2案について、城端地域の住民に説明することを確認した。なお、地域説明会は2回開催する。

【会議記録詳細】

1 開会

2 委員長挨拶

（委員長）

先日、城端教育振興会の臨時常任理事会を開いた際に、「城端地域でも学校のあり方の話し合いを始めないとダメなのでは」という意見が出ました。

今年の新入生は、小学校で2クラス、中学校も2クラスあります。これを見ていると、統合の話はまだ大丈夫なような感じがしますが、5、6年後には小学校が全て単級になり、いずれ中学校も全て単級になります。

私自身としては、学校を統合したいとは思っていません。城端小学校も城端中学校も残ってほしいです。皆さんもそうだと思います。しかし、これだけ子どもが減っているなかで、私たちは子どものために何ができるか、何をしなければならないのかを考える必要があります。学校は地域のためにあるようなことを言う人もいますが、学校はやはり子ども

のためにあります。

この委員会のメンバーには、保育園の保護者の方、小学校低学年の保護者の方にも入っていただいています。子どもたちのために大いに意見を出し合い、話し合いを進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3 委員の変更について（質疑なし）

4 協議事項

（1）城端地域の学校のあり方（案）について

（事務局）

- 城端地域の学校のあり方として考えうる案を6つを提示し、資料1、参考資料1、参考資料2に沿いながら説明 -

（委員長）

確認ですが、「城端小学校と城端中学校が単級になっても、2つの学校を両方残す」という考え方は、教育委員会では持っていないということによろしかったでしょうか。

（教育長）

第1回検討委員会で、城端小学校と城端中学校を現状どおりに両方残すことはないということと、統合の方向で学校のあり方の検討を開始することについて確認し、同意を得たと思います。そのため、「城端小学校と城端中学校を両方残す」という案は、外しています。

（委員長）

考えうる学校のあり方として、義務教育学校にする案、城端中学校は他地域と統合する案、城端小学校と城端中学校で別の地域と統合する案の説明がありました。教育委員会から出された案について、ご意見やご質問をいただければと思います。

（委員N）

私としては、城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校を設置する方向で進めていただきたいという思いです。

城端地域には、これからPLAY EARTH PARKで150人ほど雇用するという話も出ていて、今後人口が増えるかもしれません。ですから、だいたいのことまで考える必要はないのではないのでしょうか。そういった環境も踏まえ、城端地域で学校を維持していただきたいと思います。

子どもたちに城端地域の高尚な歴史や文化を教え、よく知ってもらうためにも、中学校までは城端地域の学校に通ってほしいという考えです。子ども優先とよく聞きますが、やはり子どもは地域に育てられるという言葉もありますし、地域の宝です。ですから、なぜ、わざわざ他地域まで行かないといけないのか理解できません。

また、先日から南砺つばき学舎に何度か足を運びました。子どもたちが大きな声で挨拶をしてくれたり、質問に答えてくれたりと、中学生と小学生が混ざって楽しそうにしている、義務教育学校も良いものだと感じました。先生ともお話ししました。全校で90人、各学年で10人前後ですが、それでも単級でやっているということで、子どもたちは少なくても厳しい面もありますが、うまくやっていると聞きました。また、色々とカリキュラムがあり、ハワイとオンラインで交流したり、中学校の英語の先生が小学生に英語を教えたりと、人数が少ないからこそできることもあると分かりました。

規模の大きい学校にしてどれだけのメリットがあるのか、私には分かりません。ただ、南砺つばき学舎の話聞き、城端地域も義務教育学校でいいのではないかと思います。

(副委員長)

義務教育学校のメリット・デメリットについては分かりましたが、もし、福光地域の中学校と城端中学校が統合した場合、3～4クラスぐらいの規模になると思います。その場合のメリット・デメリットはどのようなものがありますか。

私が子供だった頃と同じぐらいのクラス数なので、それと変わらないかもしれませんが。ただ、今は部活動が地域に移行したりと、昔とは違った苦勞もあると思うので、規模が大きな中学校になったときのメリット・デメリットを改めてお聞かせください。

(事務局)

規模が大きな中学校になったときのメリット・デメリットは、改めて比較した表をお示ししたいと思います。

一般的なメリットとしては、「規模が大きくなることによって交流が広がり、子どもたちの考え方の幅も広がって考え方の多様性が得られる」、「学校の規模が大きいので、運動会等の学校行事に迫力が出やすい」、「部活動で人数が必要な競技などができる」などが考えられます。

一方で、デメリットは、「小規模校に比べ、一人ひとりにスポットライトが当たりにくい」、「大人数のなかに埋もれやすくなってしまふ」などが考えられます。

(委員G)

この検討委員会は、「城端小学校も城端中学校も今のまま残す」ということも含め、学校のあり方の検討を進めるものだと思っていましたが、先ほどの話では統合ありきのようには聞こえませんでした。「単級でもメリットが大きいので、城端小学校も城端中学校も残す」という選択肢がないことは、前回の検討委員会で決まったことだったのか、確認させてください。

(教育長)

前回の検討委員会で、「統合する方向でいかなければいけない」ということを決めたという認識です。

(委員G)

前回の検討委員会では、学校のあり方を検討するか、それともしないかという選択肢があり、委員の皆さんの総意で、検討を開始することを決めた記憶はあります。ただ、「城端小学校も城端中学校も、単級となってもメリットがあれば残す」という選択肢が除かれた記憶がなかったので、皆さんの認識を改めて確認したいです。その可能性が残せるのであれば、その場合のメリット・デメリットを、今回の検討委員会で示していただけるものだと思っていたので、改めて確認させてください。

(教育長)

南砺市立学校のあり方検討委員会では、「義務教育学校にするか、ないしは、小学校を残して中学校を統合するか」という提言を出しました。

城端地域の場合は、地域から「検討委員会を立ち上げてほしい」という話がありましたし、その話がなくとも、令和13年には城端小学校が全て単級になることが分かってきたため、学校のあり方の検討を始めなければならない時期でした。それには、南砺市全体での学校のあり方の方向性として、全学年が単級の状態で学校を残すことはできないという認識です。

(委員長)

少人数だと、一人ひとりに目が行き渡るので、子どもたちにとって良いという話もあります。しかし、同じ子どもたちで9年間を過ごすわけですから、学年に10人～20人しかいない状況で、一度人間関係が崩れてしまうと、学校にいられなくなります。

アットホームな感じで過ごせばよいですが、少人数で良い教育をするというのは、そう簡単なことではありません。

(教育長)

義務教育学校が良いか悪いかという話ではなく、「城端小学校と城端中学校を今のまま残すことはない」ということと、「義務教育学校にするか、それとも城端中学校を統合するか」という方向で学校のあり方の検討を進めてよいかを確認していただきたいです。

統合を始めてほしいというのは、南砺市立学校のあり方検討委員会の提言です。城端地域でも、その方向性で進んでよいかどうかを、今、この場で確認してください。

(委員長)

今の教育長のお話は、「全学年が単級になっても、今までどおり城端小学校と城端中学校をそれぞれ運営することは難しい。その場合は、城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校とするか、それとも、城端小学校は残して城端中学校は他地域の中学校に統合するかという2つの選択肢になる」ということでした。

今ほどG委員から確認があった「城端小学校、城端中学校がどれだけ小さくなっても、2校とも残る可能性もあるのか」という点は、教育委員会としては考えていないというこ

とでよろしいでしょうか。

(事務局)

前回の検討委員会で、南砺市立学校のあり方に関する提言書では、「現状のまま小学校と中学校が残る選択肢はない」ということを説明いたしました。それを皆さんに同意、ご理解いただけたということで、「城端小学校と城端中学校を今のまま残すことはない」ことを前提にしています。

しかし、提言書に沿った城端地域の学校のあり方は、資料1の案1と案2ですが、「それ以外の統合案はないでしょうか」というご意見があったので、今回、案3から案6までの「そのほかに考えうる案」を出しています。

事務局としては、前回の検討委員会で提言書の内容を説明し、それに同意、ご理解を得られたということは、「このまま城端小学校と城端中学校を残すことはない」ということに対して同意をいただけたものと認識しております。

(委員長)

城端地域学校あり方検討委員会の上部に、南砺市立学校のあり方検討委員会があり、その提言がすでに出ています。その提言に、「全学年が単級になった時には統合を考える」とあるので、城端地域が「どれだけ小規模になっても、小学校と中学校を両方残したい」と言われても、提言に沿った形に合わせてほしいということでもよろしいでしょうか。

(事務局)

現在の提言書では、小学校に関しては、たとえどれだけ少人数になっても地域に残すこととしています。

しかし、中学校については、単級になる段階で、義務教育学校にするか、隣接する地域の中学校と統合するかを検討することになっており、中学校をそのまま残すという選択肢はありません。

(副委員長)

単級にならなければ、城端小学校、城端中学校ともに存続することがありうるのでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。単級にならない見通しが立てられれば、すなわち、学校のあり方を検討する段階で複数のクラスを維持できることが確認できれば、提言書の統合対象から外れることになります。

(委員J)

G委員の確認のとおり、城端小学校と城端中学校を現状のままで残さないという方針で

あることを、改めて確認したいです。

当局からは、統合ありきというような説明を受けました。ただ、単級で残すということのメリット・デメリットを説明していただきたいという意見もありましたので、統合するというところで検討を進めることについて、委員の意見が統一されてから進んだほうがよいということです。

前回の委員会ではうやむやな部分もありますので、もう一度、統合という形で検討を進めるのか、城端小学校と城端中学校を残すのかということを確認していただきたいです。

(委員長)

城端小学校と城端中学校を、そのまま残すかどうかを確認してほしいということでしょうか。

(教育長)

そのまま残すことはないということを確認していただけないと、次に進めません。

(委員長)

このままでは、検討委員会を開かなくてもよいという話になりそうですが…

なぜ、中学校が単級になると大変になるか分かりますか。中学校が単級になると、国語・数学・理科など各教科の先生が一人しか配置されません。そして、多くの場合、美術や技術は講師で対応することになります。その授業のあるときだけ学校に来て、授業後に帰るという形が多くなるわけで、人員配置が難しくなります。

(事務局)

それだと、義務教育学校を否定されているように思われるので、「城端小学校と城端中学校をそのまま残すことはない」ということだけを確認していただければと思います。

(委員長)

南砺市立学校のあり方検討委員会の方向性でもありますし、将来的には、教育委員会は他地域にも同じことを求めていくと思います。城端地域でも「城端小学校と城端中学校をそのまま残す」という議論ではなく、「城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校を設置する案」と「城端小学校は残し、城端中学校は他地域の中学校と統合する案」の2つで検討するというところでよろしいでしょうか。

他地域でもそれに従った動きをしているわけですので、城端地域だけが、単級になっても城端小学校と城端中学校をそのまま残すというのは、無理があると思います。

(委員N)

事務局の説明は、「単級になった時点で小学校と中学校を統合する」ということでした。そうであれば、今すぐに統合を検討するのではなく、城端中学校が全学年が単級になる時

点、つまり、令和16年ごろに統合を検討すればよいだけの話ではないでしょうか。

(教育長)

統合の検討から実際の統合までには時間がかかります。城端小学校が全学年単級になる令和13年度までの間に、色々な準備をしなければならないので、今のうちから義務教育学校にするか、城端中学校を統合するかを決める必要があります。

ですから、南砺市立学校のあり方検討委員会の方向性に沿った形にしていきたいのと、その方向性で検討を進めてよいかどうか、確認していただきたいと思います。

(委員長)

それでは確認します。

まず、「城端小学校と城端中学校が単級になっても今のまま残すことはない」とことと、統合を考える場合は、「城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校とする」又は「城端小学校を残して城端中学校は他地域と統合する」という方向性で議論を進めていくということでしょうか。

事務局から案3～案6を示されましたが、これらの4つの案は考えられないように思います。この4案にご意見はありますか。無理やり作ったような案に思われますが。

(委員G・委員N)

案3から案6までの4つの案は、度外視でいいと思います。

(教育長)

本日の委員会で、現実的に考える案に絞っていただければと思います。

(委員長)

第1回の検討委員会では、委員全員にお話しいただきました。せっかくですので、今回も委員の皆さんから感想やお考えをお話しいただければと思います。

(委員B)

案2の義務教育学校の設置がよいと思います。城端地域の学校を守りたいですし、子どもが城端にある学校に通ってくれれば、何かあってもすぐに駆けつけられますし、祖父母に迎えを頼むにしても、自宅から近いほうが助かります。

(委員D)

第1回の検討委員会で聞いたことを踏まえ、周りの保護者に意見を聴いてきました。他地域と混ざると、通学などの困ることが色々あるので、義務教育学校にしたほうが良いという意見が多かったです。

私自身も近くに学校がある方が安心ですし、城端の伝統行事もあるので、城端に残した

い気持ちが大きいです。

(委員E)

個人的な感情でいえば、義務教育学校にして、地元 학교があつてほしいという思いはあります。

ただ、下の子は同年代に19人しかおらず、そのまま学校に上がった時に、どのような学校生活になるのか予想がつきません。学校は勉強だけでなく、むしろ、人間関係などを学ぶ側面が大きいと思います。子どものためには、人数が多いほうがいいのではという思いもあり、まだ答えが見つかりません。

また、委員長が冒頭のご挨拶で、「子どものことを考えて」とおっしゃいました。まさにそのとおりだと思う反面、地元で商売をしていたり、地元の活動に参加している立場から見ると、例えば、お子さんがいる家庭が南砺市に転入し、城端地域と福光地域のどちらに住むかとなった場合、城端地域に小学校しかなければ、通学に便利な福光を選ぶのではないかと思います。地域に学校がないということは、地域が廃れていく一番の近道なのではないかと考えます。

義務教育学校という話を耳にするようになってから10年が経たないぐらいだと思います。実際に義務教育学校になった地域や、学校を統合した地域のその後の経済状況や人口の推移等のデータが出てきている頃ではないかと思います。そういう意味では、教育施設という観点だけでなく、市として更に大きな側面から考える必要があるのではないかと思います。学校のことだけを考えて統合すると、人口の多い福光に寄っていくことになりそうです。そうなったときに、城端がこの先に栄えていく可能性はゼロに等しいと感じます。

早めに答えを出さなければいけないのかもしれませんが、判断するための情報が少ないと思います。もっと多角的に捉えていかないと、子供たちの一生、地域の今後の行く末を左右しかねない話ですので、情報をたくさん入れ、大きな視野でもう一度考えてみたらいいのではないかと思います。

(委員O)

メリット・デメリットのところで、少人数だと人間関係が固定化するという話がありました。私は一学年8クラスの学校出身でしたが、一学年に何百人いても、その時に関わる子どもの人数は限られます。多ければいいということでも、たくさんの人と関わって色々なことができるということでもないと思います。

また、いじめは、人数が多かろうと少なかろうとあると思います。人数がたくさんいるから大丈夫だということもないですし、反対に、人数が少ないから人間関係が固定化してしまってダメだということもないと思います。近所に、他県の小規模な学校を卒業した方がいますが、「少人数のクラスだったが、みんなが兄弟のようで楽しかった」と聞きます。なので、少人数だからといって悪いことばかりではないと思います。

また、子どもを送り迎えするようになりましたが、その立場からすれば、学校は近いほうがよいと思います。

(委員K)

中学校の近くに勤務していますが、降雨や大雪のときは、中学校の前が保護者の車で渋滞します。もし、城端の子どもたちが福光地域の中学校に行くとなると、忙しい時間帯に親が送ったり、公共交通機関を利用して福光まで通学できるかということ、私は疑問を持っています。

商店街の人からは、考えられない時間に中学生が登校しているという話をよく聞きます。また、数年前の卒業式では、80人の卒業生のうち、5人の子が不登校で卒業証書を得られなかったこともあり、それにも驚きました。ちょっとしたきっかけで不登校になり、「部活だけに行く」とか「給食だけ食べに行く」という子どもを見てきています。もし、福光地域の中学校に行くとなると、こうした状況の子どもたちは、部活も行かないし、給食も食べに行かないと思います。ますます不登校に拍車がかかるような気がします。

子どものことを考えると、色々な意見があると思います。小規模、大規模で考えるのではなく、子どもの数は減っているのに、不登校が増えている、自殺が増えている、発達障害が増えているという現状を考えると、小規模な学校で一人ひとりにスポットライトが当たるような教育をしたほうが良い考えます。ですので、義務教育学校が良いと思っています。

(委員J)

義務教育学校に関し、人間関係の固定化という話がありましたが、南砺つばき学舎には、人間関係が悪くなったという理由で、福野地域や福光地域から通う子どもがいますので、その部分については否定します。

大規模な学校であれば、たくさんの競争相手がいって、色々な人間が見られるという話もありました。ただ、私は小・中学校が5クラス、高校は9クラスありましたが、クラスがたくさんあったから、たくさんの人と知り合えたということはありませんでした。どちらかといえば、高校の部活動で色々な先輩、後輩、顧問の先生と関わったと思います。

そう考えると、人間関係の観点からメリットを考える必要はないと思います。

(委員I)

案1と案2でそれぞれ良い部分と悪い部分があると思いますが、多くの人は、案1の「義務教育学校が望ましい」という意見だと思います。

ただ、南砺市全体を考えたときに、年間で160人しか子どもが生まれていない状況のなかで、その子どもたちが大きくなって学校に行く頃になったときに、どのような南砺市になっているかということをシミュレーションしながら、どんな南砺市を作っていきたいかについても、多面的に考える必要があると思います。

案2にするにしても、スクールバスが出せるのか、親の負担があるのかどうかもあります。両方の案を残しつつ、2つの案のシミュレーションをしながら、選択していけばよいのではないかと思います。

(委員H)

自分の子どもたちは全員、城端地域の保育園・小学校・中学校で育ちました。子どものためにという観点から、子どものためにどのような環境を親は整えたいかを考えると、自分が住んでいる環境のなかにある学校で、地域の人、顔を知っている人、近所の人と接しながら、城端地域でずっと過ごしていけるほうが安心できると思います。

また、E委員がおしゃったとおり、学校のない地域に移住や転入を考える子育て世代の親は、なかなかいないと思います。部活動の拠点化が進んでいるなかで、部活動の送迎をどうするのかという問題も保護者の間で挙がっています。学校が福光地域になると、中学生は電車も使えますが、小学生は車、バスが必須になるので、送迎面でも不安があります。

保育園のクラスもかなり減っていますが、9年間同じ学校どころか保育園からずっと顔なじみの関係ができていますので、安心して入学できる面もあると思います。保育園、小学校、中学校が城端に全て揃っている環境が、今としてはベストだと思うので、結論としては義務教育学校の設置という形で進めば、素敵地域になるのではないかと考えます。

(委員G)

周りの地域で学校統合やその検討が先に進んでいるので、城端地域の選択肢が狭まっているのが現実だと考えています。

例えば、福光地域の中学校と統合する場合は、収容人数の関係で令和10年度以降しか入れないと言われますが、それはハード面の話でしかなく、子どものことを考えた検討にはなっていないと思います。義務教育学校にしても、城端小学校が使えるのが令和16年度以降というのも、「学校が小さいから、令和16年度までは我慢してください」と言われているとしか思えず、「子どものことを考えた結果、令和X年度からこのようにしていきましょう」という考えにはなっていないような気がします。

義務教育学校を検討する際には、すでに義務教育学校になっている地域の子どもの満足度や、義務教育学校になってから不登校だったが行くようになった、逆に行かなくなったなどのデータがあれば示していただき、判断材料にさせていただきます。

(副委員長)

小学校から中学校まで、大変充実した9年間を送ることができました。携わっていただいた先生方や仲間にも恵まれ、とても有意義な9年間でした。今でも小学校や中学校時代の運動会や合唱コンクールの話で盛り上がることもあります。そう思うと、人数が少なくなり、学校行事が縮小されるのは、少しかわいそうだと思います。

小学1年生から中学3年生までの9年間で充実させることも大切ですが、子どものことを一番に大切に考えるということは、学校のあり方もそうですが、中学校を卒業した後の人生のほうが長いので、どのような教育を受けられることが子どもたちにとって幸せなのか、そして、中学校を卒業した後のことも考えないといけないと感じました。

昨年11月に富山県のPTA会員大会が県民会館であり、慶應義塾大学の中室牧子先生の基調講演がありました。教育経済学の話でしたが、「子どもたちがどうしたら大人になっ

たときに成功しやすいか」、「成功した大人たちがどんな幼少期を送っていたか」という話もありました。義務教育学校のメリットである「小学生と中学生に交流が生まれる」にもあるように、小さいときにリーダーになったり、スポーツをすることで、非認知能力が養われ、大人になったときに良い結果として現れるという研究結果が出ているそうです。幼少期から自己決定をする機会が多いので、成長に優位に働くという話でした。

これから、どのような学校のあり方に持っていくかについて、慎重に考えていかなければいけないと思います。そのときには、小学校1年生から中学校3年生までだけのことを考えるのではなく、その後のことも考えた議論になっていけばよいと思います。

(委員長)

ありがとうございました。もし、福光地域に通学するとなったら、「どうやって通うか」、「福光地域まで送らなければいけないのか」という心配がありました。このあたりはどうなりますか。

(事務局)

もし、福光地域の学校に通うとなれば、当然スクールバスを運行することになります。ただ、通学に関することですので、朝に登校し、部活動が終わってから下校するという形になります。先ほど言われた給食のためだけに行くとか、部活動から行くという場合には、スクールバスでの対応はできないので、その点をご理解いただければと思います。標準的な通学に関しては、交通手段は全部スクールバスで対応したいと考えております。

先ほど「令和10年度以降しか入れないのか」という話も出ましたが、もし、今年度で全てが決まったとしても、実際の統合までに1年半から2年はかかります。井口地域、利賀地域、平・上平地域の義務教育学校でも、統合までに2年間かかっています。そのため、今年度中に全てが決まるのであれば、最短で令和10年に統合できるということであり、統合を令和10年まで待たせるというわけではありません。

「義務教育学校を設置する場合に、城端小学校が使えるのが令和16年度以降」というのも、提言書で「統合による増築新築工事は行わない」としているからです。現校舎を使うのであれば、城端小学校の収容人数では、令和16年にならないと入れないということです。

また、「義務教育学校を設置する場合に、城端中学校が使えるのは令和12年以降」ということに関しては、城端中学校の既存の校舎は、建設からかなりの年数が経過しているので、大規模改修が必須です。もし、城端中学校を使うということが決まれば、すぐに大規模改修を行います。それが終わるまで2年程度かかるので、令和12年以降としています。このような事情を考慮して統合可能時期を設定しているもので、決して統合を待たせるというものではありません。

(委員長)

今のところ、案1と案2で検討を進めていくことが考えられます。案3から案6まで以外は考えがたい案ですので、案1と案2を地域の皆さんに提案し、ご意見を集めながら、検討委員会で結論を出していきたいと思っています。

(委員J)

今の議論とは少し離れますが、井口地域は早々と義務教育学校をスタートしました。城端地域も児童生徒数が減っていますが、井口地域は児童生徒数を確保でき、今後も義務教育学校を続けられる状況なのではないでしょうか。

もしかしたら、城端地域と井口地域の統合も考えられるのではと思ったりもします。

(教育長)

義務教育学校に関しては、例えば、利賀学舎の前期課程は全て複式学級です。それでも、義務教育学校として運営できます。井口地域が望めば、城端地域と統合するということも何十年後にはあるかもしれませんが、南砺つばき学舎が急になくなるという見通しはありません。

また、現在の南砺市立学校のあり方検討委員会では、これから10年～15年後のことを考えています。それ以降のことになると、例えば、福野中学校を改築しないといけない状況になっていますが、その頃になると、南砺市全体の子ども数も相当減っていると思いますので、市全体で学校統合を考えるという方向も出てくると思います。

(委員長)

統合の際に現校舎を使うという話が出ていますが、例えば、砺波市は般若中学校、庄川中学校、庄西中学校で統合しますよね。砺波市教育委員会は、現在の庄西中学校に全部を統合するのではなく、全く新しい敷地に新しい中学校を建てるという方向で動いています。

例えば、もし、福光地域の中学校と城端中学校が統合するとしたら、新しい校舎を建てるというのは考えられるのでしょうか。

(教育長)

教育委員会としては考えておりません。砺波市の場合、統合する中学校の校舎が古く、建て替えないといけない時期に来ています。

一方、南砺市の小・中学校は、20年ぐらい前に改修し、まだ十分に利用できます。使える体育館も十分にあり、部活動をするにしても大変よい環境です。教育委員会としては、今の時期に既存の校舎を全て廃止し、新しい校舎を建てるとするのは、子どもたちにとってよい環境になるとは思っていないです。

仮に、新しい校舎を建てるとすれば、先ほど申し上げました、20年後ぐらいに市全体で学校統合を考えるときになるのではないのでしょうか。

(委員長)

ほかに何かご意見はありますか。

この後ですが、検討委員会では学校のあり方を案1と案2で考えていることを、我々だけでなく、地域の皆さんや多くの皆さんに知っていただき、ご意見を伺いたいと思います。そして、地域の皆さんに説明した後に、再び検討委員会を開き、最終的な方向を話し合っ
て進めていきたいと思っています。

これらの案を、城端地域の皆さんに教育委員会が説明するのはいつ頃になりますか。

(教育長)

今回の検討委員会で、学校のあり方は、案1「城端小学校を残し、城端中学校は他地域の中学校と統合」と案2「城端小学校と城端中学校を統合し、城端地域に義務教育学校を設置」の2案に絞り、今後は、その2案で協議を進めることに決定されたということ
でよろしいでしょうか。

(委員長)

確認します。案3から案6まで4つの案は地域の皆さんには示さず、案1と案2の2つの案だけを地域の皆さんお示しし、ご意見を伺うということ
でよろしいでしょうか。

(委員J)

案1についてですが、今の段階で、統合する中学校を福光地域に限定するのは反対です。この時点で福光地域に限定してしまうと、福光地域の中学校に通学することが決定したか
のように思われてしまいます。

(教育長)

案1が「城端中学校を福光地域の統合中学校と統合」ではなく、「城端中学校を他地域の中学校と統合」であれば、問題ないということ
でしょうか。

(委員J)

はい。この段階で、福光地域に限定されることには反対です。

(委員長)

案1を「城端小学校を残し、城端中学校は他地域の中学校と統合」、案2を「城端小学校と城端中学校を統合し、城端地域に義務教育学校を設置」として、この2つの案について、地域の皆さんからご意見を伺うための説明会を開催し、説明会の状況を踏まえ、改めて検討委員会で協議するという
ことで進めましょう。

(委員N)

案1の「他地域」は、福光地域に絞ればいいのではないのでしょうか。

(委員E)

私もJ委員に同意で、今の時点で福光地域に限定すべきではないと思います。

ただ、現実問題として、どこの地域と一緒になるのかという話であれば、ありうるのは福光地域と井波地域だと思います。福野地域は、生徒数のことや、間に福光を挟んで更に遠くなるという立地条件なので、厳しいと思います。逆に山間部に行くことも、環境的にないだろうと思います。

福光地域と井波地域を候補に挙げ、その上で、「福光地域と統合したらどうなるか」、「井波地域と統合したらどうなるか」というのを地域の皆さんにお示しするには、交通手段を含め、どのような形になるのかをまとめた資料を揃えないと、議論を尽くすには判断材料が少ないのではないかと思います。

現時点では、「他地域」ではなく、「福光地域・井波地域」とするのがよいと考えます。

(事務局)

提言書では、「隣接する地域と統合」となっています。井波地域は、間に井口地域を挟んでいるので、提言書に従えば、井波地域との統合の可能性はありません。

しかし、井波地域も統合案の対象にすべきということであれば、提言書からは外れますが、井波地域との統合の可能性はあるとは思いますが。

(教育長)

それでは、案を3つにしましょうか？「城端中学校を福光地域の中学校と統合」「城端中学校を井波地域の中学校と統合」、「城端小学校と城端中学校を統合して義務教育学校を設置する」の3つの案にして、城端地域の皆さんに問うということによろしいでしょうか。井波地域が城端地域と隣接していないことは明記します。

(委員N)

井波地域との統合は、ありうるのでしょうか。

(事務局)

井波地域がどう反応されるかではありますが、井口地域を超えてスクールバスで通うのはできないことではないとは思いますが。ただ、井波地域の方はびっくりされるかもしれませんが。

(教育長)

とにかく、城端地域の皆さんに問うてみたらよいと思います。

(委員J)

皆さんのご意見では、おおかた、義務教育学校の設置を望んでいらっしゃると思います。しかし、この段階であえて1つの案に絞るのは強引なので、案1も残す必要があるという感覚

です。ただ、この段階で福光地域に限定するというのは、城端地域のほかの人たちには言いづらいです。

(事務局)

そのようなご意見であれば、資料では「他地域との統合」という書き方にして、地域説明会で「他地域とはどこの地域の事か？」という質問があれば、可能性が高いものを説明するという対応はできると思います。

確かに、今の段階で具体的に福光地域と統合と出すと、福光地域がどう反応されるかということもありますので、はっきり書かないほうが良いというご意見も、確かにそのとおりだと思います。

(委員長)

それでは、「他地域」について質問があれば、可能性としてどの地域があるかを説明することとし、案1「城端小学校を残し、城端中学校は他地域の中学校と統合」と案2「城端小学校と城端中学校を統合し、城端地域に義務教育学校を設置」の2つの案に絞り、地域の皆様のご意見を伺う説明会を開催するというところで、意思統一したいと思います。

(2) 今後の進め方について

(委員H)

第1回検討委員会のときに、「城端地域の方を対象とした説明会を開く前に、保護者対象の説明会を開催するのはどうか」という話があったと思いますが、保護者対象の説明会がないうちに、すぐに地域説明会を開催される予定ですか。保護者対象の説明会というのは、検討されていますか。

(事務局)

保護者対象の説明会も、ご要望があれば開催できればと思っております。ただ、地域説明会は、城端地域の皆さんが対象ですので、そのなかには、当然保護者の皆さんも含まれています。

福光地域では校区ごとに開催し、保護者の皆さんが中心に参加されました。その後に、もっと議論を深めたいということで、個別での説明会も行っています。地域説明会をしたらそれだけで終わらせるということではないので、対応させていただきます。

(教育長)

資料1の今後のスケジュール案にあるとおり、説明会は7月又は8月に開催することを考えています。城端小学校と城端さくら保育園でそれぞれ1回ずつ、計2回開催できればと思っております。保護者の皆さんが中心になると思いますので、保護者の皆さんが来やすい場所で、地域の方々も来ていただきたいという形で案内します。

平日の夜と土曜日の午後に1回ずつ開催し、働いている方にも広く来ていただけるよう

にできればと考えていますが、いかがでしょうか。

(委員長)

地域説明会は、城端小学校で1回、城端さくら保育園で1回の計2回開催するということですね。それぞれ、PTAや保育園と相談して日時を決定し、開催するということよろしいでしょうか。

保護者の方だけではなく、地域の皆さんにも案内し、関心のある方に来ていただき、ご意見を伺うという形でいかがでしょうか。

(委員から「それでよいです」との発言あり)

(事務局)

そのほかにも、説明する場を個別にご要望されるのであれば、対応いたします。福光地域では、福光中部小学校の校区が広く、その校区の一部の地区だけの保護者で話したいということで、こちらから説明に伺った地域もありました。

(委員長)

そうすると、次回の検討委員会は、2回の地域説明会が終わってから開きたいと思いますが、何月頃でしょうか。

(事務局)

資料1の今後のスケジュール案のとおり、地域説明会を7月又は8月に2回は必ず行い、個別にご要望があれば、随時対応します。

その後、9月中、それか遅くとも10月初めまでには、第3回の検討委員会を開催し、その時に、保護者の皆さんや地域の皆さんの意見を集約し、本日の検討委員会で絞った2つの案について、協議いただきたいと思います。

また、学校には、子どもたちの意見を聴くということを検討いただきたいと思います。平・上平の義務教育学校では、学校名などを決めていく段階で、学校で状況を説明し、子どもたちの意見も聴いています。他地域でもその流れです。

城端地域でも、子どもたちに検討状況の経過を報告し、意見を聴いていくことも考えています。

5 今後の日程

(事務局)

次回の第3回検討委員会は、9月下旬から10月初めまでの間に開催を予定しています。

6 副委員長挨拶

(副委員長)

皆さん、長時間にわたって貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今日の検討委員会で、少しずつ方向性が見えてきたと思っています。

子どもたちを育てていく上で、「子どもは家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」という格言があります。我々保護者、先生方、地域の皆さんと一緒に、子どもたちのためにどういう学校が必要か、しっかり議論していきたいと思います。

南砺市では2022年に「こどもの権利条例」が制定されました。一番最初は、2000年に神奈川県川崎市で、「子どもは地域の宝である。子どもをしっかり守っていく」ということで、「子どもの権利に関する条例」制定されたそうです。その際に、子どもたちが登壇して発表し、「私たちの声をしっかり聴いてほしい」といった意見があったそうですが、私に一番響いたのは、「それよりも一番望んでいることは、大人が幸せであってほしい」という発表です。

これから、子どもたちのために、しっかりと学校のあり方を検討していくわけですが、子どもたちの幸せはもちろん、大人たちも幸せになるような方向で進めていければと思っていますので、ご協力いただきますことをお願い申し上げまして、閉会の挨拶といたします。

本日はありがとうございました。